

「犯罪のない安全なまちづくり」についてのアンケート結果

調査時期：平成19年12月

対象者：県政モニター 300人

回答数：235人（回収率78.3%）

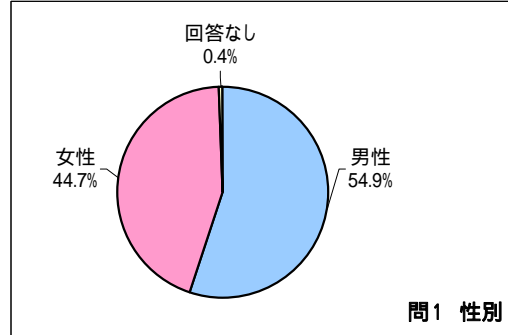
担当課：県民活動課

調査目的：滋賀県では、「誰もが犯罪に遭うことなく、安全に安心して暮らすことができる社会」の実現を目指して、安全なまちづくりに関する各種の施策を実施しています。

そこで、県民の皆様が防犯についてどう感じられ、期待されているかお教えいただき、今後の安全なまちづくりの施策に活用していくことを目的として今回のアンケートを実施しました。

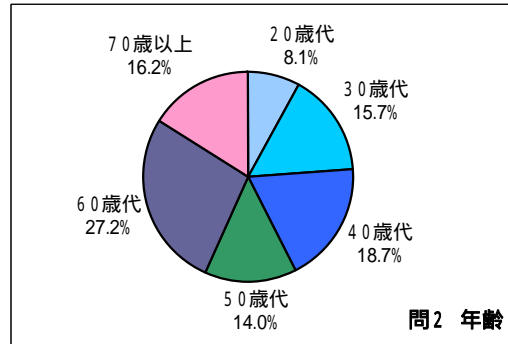
問1 あなたの性別を教えてください。

	人数(人)	割合
男性	129	54.9%
女性	105	44.7%
回答なし	1	0.4%
計	235	100.0%



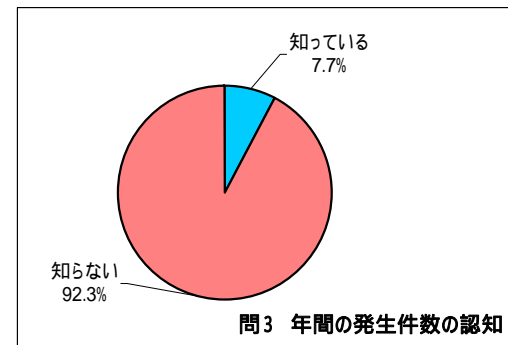
問2 あなたの年齢を教えてください。

	人数(人)	割合
20歳代	19	8.1%
30歳代	37	15.7%
40歳代	44	18.7%
50歳代	33	14.0%
60歳代	64	27.2%
70歳以上	38	16.2%
計	235	100.0%



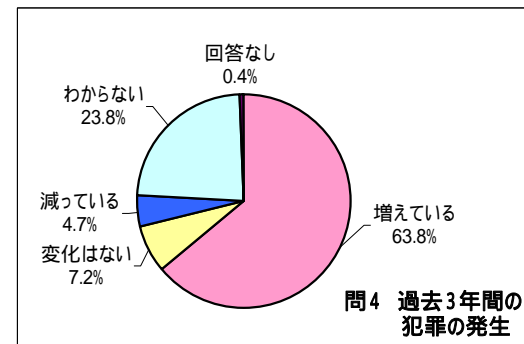
問3 現在、滋賀県内で年間何件くらい犯罪が発生しているかご存じですか。

	人数(人)	割合
知っている	18	7.7%
知らない	217	92.3%
計	235	100.0%



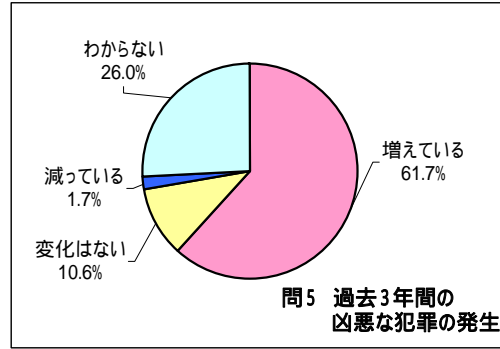
問4 過去3年間、県内で発生している犯罪(全体)についてどう思われますか。

	人数(人)	割合
増えている	150	63.8%
変化はない	17	7.2%
減っている	11	4.7%
わからない	56	23.8%
回答なし	1	0.4%
計	235	100.0%



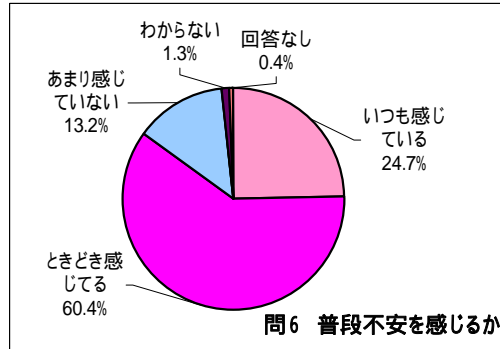
問5 過去3年間、県内で発生している凶悪な犯罪(殺人や強盗など)についてどう感じますか。

	人数(人)	割合
増えている	145	61.7%
変化はない	25	10.6%
減っている	4	1.7%
わからない	61	26.0%
計	235	100.0%



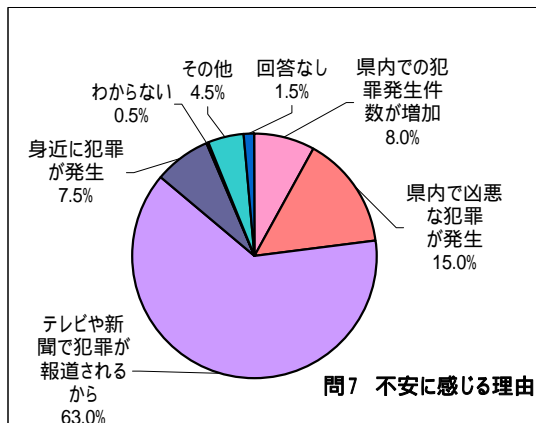
問6 県内の犯罪(全体)について、普段不安を感じていますか。

	人数(人)	割合
いつも感じている	58	24.7%
ときどき感じている	142	60.4%
あまり感じていない	31	13.2%
まったく感じていない	0	0.0%
わからない	3	1.3%
回答なし	1	0.4%
計	235	100.0%



問7 問6で「いつも感じている」または「ときどき感じている」と回答された方にお聞きします。そのように感じられる一番の理由は何ですか。

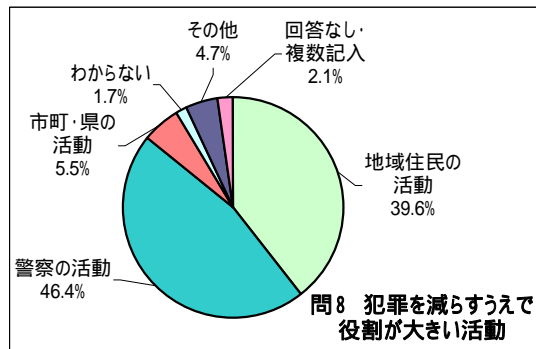
	人数(人)	割合
県内での犯罪発生件数が増えているから	16	8.0%
県内で凶悪な犯罪が発生しているから	30	15.0%
テレビや新聞で全国各地の凶悪な犯罪や巧妙な犯罪が報道されるから	126	63.0%
身近に犯罪が発生したから	15	7.5%
わからない	1	0.5%
その他	9	4.5%
回答なし	3	1.5%
計	200	100.0%



その他の内容：外国人の人が増えていて、身近に多い。地域の人間関係が不透明なので。近頃の若者に信頼がおけないから。色々なところで犯罪が起きていることを聞いたりするからなど。

問8 県内の犯罪を減らす上で、役割が最も大きい活動は何だと思われますか。

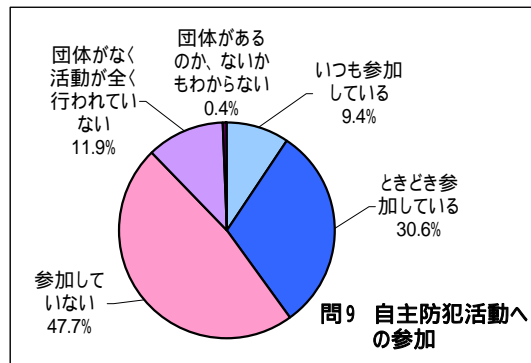
	人数(人)	割合
地域住民の活動	93	39.6%
警察の活動	109	46.4%
市町・県の活動	13	5.5%
わからない	4	1.7%
その他	11	4.7%
回答なし・複数記入	5	2.1%
計	235	100.0%



その他の内容：政治の取り組み方、姿勢。地域、警察と行政との協働。刑罰の強化や法律・条例での規制による抑止。人の教育やモラルの向上。家庭での取組。防犯カメラの設置・活用など。

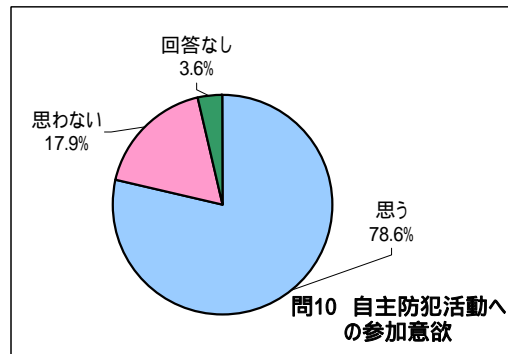
問9 地域安全を自ら守るため、各地で自主防犯活動団体による防犯パトロール等の活動が行われていますが、その活動に参加されていますか。

	人数(人)	割合
いつも参加している	22	9.4%
ときどき参加している	72	30.6%
参加していない	112	47.7%
団体がなく活動が全く行われていない	28	11.9%
団体があるのか、ないかもわからない	1	0.4%
計	235	100.0%



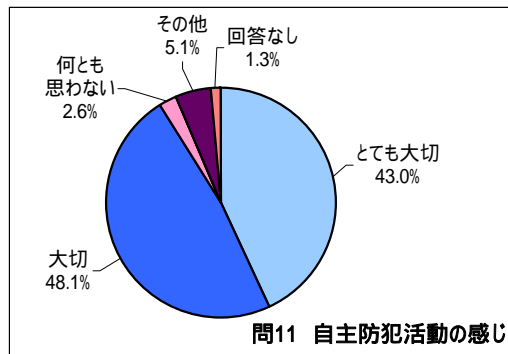
問10 問9で「4. 団体がなく活動が全く行われていない」と回答された方にお聞きます。あなたは機会があれば参加したいと思いますか。

	人数(人)	割合
思う	22	78.6%
思わない	5	17.9%
回答なし	1	3.6%
計	28	100.0%



問11 地域安全にとって自主防犯活動団体等の活動をどのように感じておられますか。

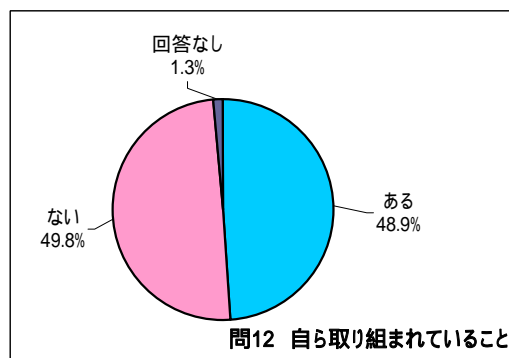
	人数(人)	割合
とても大切	101	43.0%
大切	113	48.1%
何とも思わない	6	2.6%
必要ない	0	0.0%
その他	12	5.1%
回答なし	3	1.3%
計	235	100.0%



その他の内容： 何とも言えない。活動の実態がわからない、PRがない。適切な内容、程度の選択がむずかしい。強制になると小さい子どもがいて現実的に無理。防犯活動の質を高めていく必要がある。防犯ではなくコミュニケーションをとる活動が必要。夜間照明、防犯カメラ、非常ベルなど科学的な防止策を強化すべき。大事だが、警察の代わりを期待されては困る。あくまでも行政に責任があるなど。

問12 防犯対策のために、自ら取り組まれていることがありますか。

	人数(人)	割合
ある	115	48.9%
ない	117	49.8%
回答なし	3	1.3%
計	235	100.0%



問12で「ある」と回答された方の取り組まれている内容(主なもの)

- ・犬を飼っている。
- ・家の二重ロックや戸締まりの徹底、雨戸やシャッターを閉める。
- ・自宅の外灯や玄関灯の設置点灯、センサーライトの設置。
- ・駅までの迎え。
- ・夜間の外出を控えたり、一人歩きをしない。暗い道は避け、懐中電灯や防犯ブザーを携帯する。
- ・留守時に隣家へ一声かけたり、見回りを依頼。
- ・近隣の人とあいさつする。
- ・庭木を茂らさない、家の周りの整理整頓。
- ・地域や団体のパトロール活動等に参加。
- ・見かけない人への声かけ、人着等の記憶、情報を流す、見知らぬ訪問者へのチェーンロックでの対応。
- ・留守時等に電灯を点けておく、郵便受に新聞等を貯めない。
- ・子どもの登下校時のパトロールや見守り、スクールガードや子ども110番の家に参加。
- ・110番の家のマップづくり、通学路の草刈り、看板等の設置。
- ・ひったくり防止のネットを活用。
- ・自治会で道路の外灯を増設、マンションの管理組合で防犯カメラの設置と夜間照明を明るくした。
- ・車中にカバン等を置いておかないなど盗られない工夫をする。
- ・自分の身は自分で守る意識をもつ。
- ・トラブルを起こさないよう気をつける。
- ・家族内での防犯についての教育、話し合い。
- ・防犯グッズの利用や警報装置の設置、警備会社との契約など。

問12で「ない」と回答された方の防犯対策のために取り組めばよいのではと思われる内容の自由記述(主な意見)

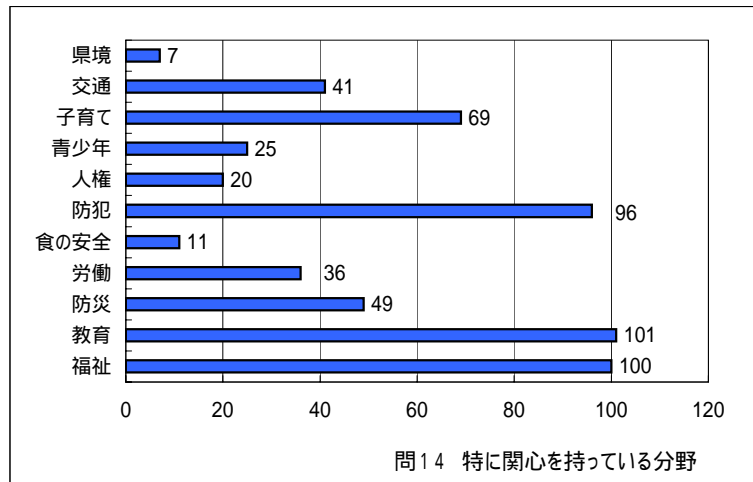
- ・家の周りの環境整備、防犯対策や家の戸締まりの徹底。
- ・二重ロック、防犯ブザーの普及や防犯カメラ、センサーライトの設置や外灯の増設。
- ・玄関付近の照明を明るくする。
- ・夜間の外出を控える、注意して明るい場所を歩く。
- ・不審者への注意、声かけや通報。
- ・留守時に隣家へ一声かけたり、近所付き合い、あいさつ、地域交流の充実。
- ・PTAによるパトロールなど、通学児童の見守り・声かけ。
- ・防犯意識を高める。
- ・警察や行政との連携やコミュニケーション、警察のバックアップ。
- ・現場主義の警察改革や交番への常駐。
- ・地域における自主防犯活動団体の取組や夜間パトロールへのより多くの人の参画、積極的な活動。
- ・深夜営業の規制。
- ・取組講習会の実施や防犯についての知識を教えてほしい。
- ・警察の巡回強化や人員の増加。
- ・家庭内での話し合い。
- ・ネットワークによる防犯情報の提供。
- ・地域安全マップづくり、防犯マニュアルの作成。
- ・地域での具体的な取組は知らない。
- ・個人で利用可能なものを知らない。
- ・自分が被害にあうということが全く感じられないなど。

問13 県内での犯罪について不安をなくすためには、どうすればよいと考えるかの自由記述(主な意見)

- ・自ら注意し、心がけ、もっと周囲への関心を持つ。
- ・家庭での話し合いや対話をもつ。
- ・防犯意識を向上させる運動を行う。
- ・自治への関心や共生精神を持たせる。
- ・近所づきあいや自治会等でコミュニケーションや交流を持つ。自治会等の団結力をあげる。あいさつや声を交わす。
- ・様々な団体によるパトロールやその強化が必要。
- ・地域におけるセーフティネットや相談体制を充実させる。
- ・保護者が参加した活動の展開。
- ・警察からの情報(犯罪の実態や防犯対策情報)をきちんと提供する。
- ・情報のネットワーク化。
- ・防犯活動について広くPRする。報道機関を使ったPRを行う。
- ・人を育てる学校教育、家庭教育が必要。親への教育も必要。
- ・犯罪にあわない、原因をつくらない教育の推進や倫理・道徳教育を増やす。
- ・警察力の強化(きめ細かいパトロール、対応、検挙力の増進)。
- ・交番の増設、交番等への常駐。
- ・警察官の意識改革、小さな犯罪の防止検挙を行うなど警察活動のアピール。
- ・格差社会は正(雇用)、核家族化、共働き、差別をなくす対策。
- ・外灯の増設、防犯カメラの設置、機械警備の導入等。
- ・防犯指導、対策の実施。
- ・犯罪を誘発する施設等の制限や刑罰の強化。
- ・社会でのシステムづくり。
- ・外国人労働者の規制や対応。
- ・未成年者の夜間外出取締りや健全育成。

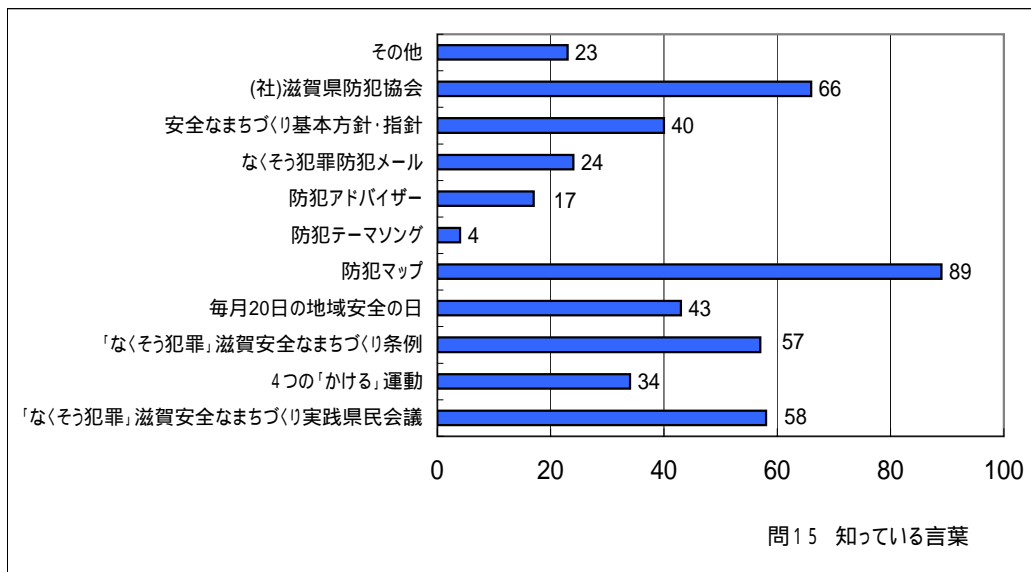
問14 次の分野の中で、あなたが特に興味を持ってられるものはどれですか。(は3つまで)

	件数	順位
福祉	100	2
教育	101	1
防災	49	5
労働	36	7
食の安全	11	10
防犯	96	3
人権	20	9
青少年	25	8
子育て	69	4
交通	41	6
県境	7	11
回答なし等	4	



問15 次の中から、あなたが知っているものをえらんでください。(はい/いつでも)

	件数	順位
「なくそう犯罪」滋賀安全なまちづくり実践県民会議	58	3
4つの「かける」運動	34	7
「なくそう犯罪」滋賀安全なまちづくり条例	57	4
毎月20日の地域安全の日	43	5
防犯マップ	89	1
防犯テーマソング	4	11
防犯アドバイザー	17	10
なくそう犯罪防犯メール	24	8
安全なまちづくり基本方針・指針	40	6
(社)滋賀県防犯協会	66	2
その他	23	9



その他の内容： 全く知らない(15人)。 地域防犯推進協議会。 河川管理、公園管理の安全と防犯点検。 交番だより。 地域安全ニュース。 暴力団追放県民会議。 少年サポートセンター。

問16 自由記述(主な意見)

防犯環境の整備関係

- ・各家庭でセンサーライトを設置する。
- ・暗い道が多く危ないと思うので、外灯をもっと多く設置して欲しい。青色防犯灯にする。
- ・街路樹など見通しが悪くならないよう整備し、見通しが悪い道路にはカーブミラーを増やして欲しい。
- ・歩道の整備(歩道と車道を分離する)
- ・防犯カメラを設置する。
- ・暗い道路には注意喚起の標識を設置する。
- ・整理整頓されたすばらしい町並みを醸成し、犯罪者につけいる隙のない街とすることが必要。

防犯意識関係

- ・犯罪を許さないという意識を持つ。
- ・常に犯罪と隣り合わせであることを認識し、個人として犯罪に巻き込まれないようにする。
- ・周囲の者が不審を感じたら、他人であろうとも注意を喚起する。
- ・日常生活の中で近くの人達の話題になっていかないと意識づけられない。
- ・日々防犯に自主的に関心をもつこと。
- ・隣近所で各自が注意して、その地域からは犯罪が行われぬように注意すべき。
- ・安全なまちづくりは何としても県民一人一人が必要性を認識することが大切。
- ・住民一人一人が温かい心を持てば安全なまちづくりが推進できる。(社会全体が助け合いの心を持てるような施策が必要)
- ・万一、発生した場合を予測して日頃から防犯意識を高める。
- ・暗くなったらできるだけ出歩かない。

コミュニケーション関係

- ・隣近所のコミュニケーションが重要。
- ・田舎に住んでおり、隣近所のつながりもあって安全だと思う。
- ・地域住民一人一人の笑顔の見えるまちづくりが必要(地域でお互いの顔をよく知る)
- ・新住民と旧住民の集いの場があればよい。
- ・隣近所とのつき合いから様々な情報を知り、不審者などの情報を地域の中で伝え合う。
- ・井戸端会議の復活こそ安全、安心のもととも極論できるのではないか。

警察関係

- ・警察パトロールの強化、要員・体制の強化。警察の派出所を有効に増設し心理的な安心感を住民に与える。
- ・警察の検挙率のさらなる向上。
- ・交番の警官の常駐やOB警察官の活用パトロール。
- ・警察署はもっと地域に入り込んでいく必要があると思う。地域住民と警察の連携・コミュニケーションの強化を要望したい。
- ・警察やボランティアによる見回りなどが必要。
- ・軽犯罪を徹底検挙して、青少年をはじめ軽犯罪を放置しない取締の徹底。軽微な交通ルール無視の取締。

自治組織関係

- ・防犯自治組織の再編成(住民の話し合う場が必要)。
- ・自治会のつながりを強くし、防犯意識を高めていくことが大切。
- ・地域の団結力で防犯パトロールの実施する。
- ・身近な地域問題からグループで取り組んでいく活動が必要。
- ・住民の取組と警察の力がバランスよく発揮されることが大切。
- ・お互いに見守り、助け合い、支え合うことによって安心・安全なまちづくりができる。
- ・住民は地域ごとに実践班的な活動を通してその実を上げることが大切だと思う。
- ・自治会などで、もっと話し合いを密にしてアイデアを出し合い、実行し、地域意識を高める。
- ・町ぐるみで防犯について考え、安全なまちづくりが一番だ。

教育関係

- ・自由の名の下、注意等されない教育現場ではいけない。他人の子でも正しく注意等する。
- ・自分の子や孫だけでなく子ども達を悪い事は悪いとしかることが必要。
- ・親はしっかりと自分の子どもを分析すること。
- ・良いことと悪いことをしっかり教育することがゆくゆくは安全なまちづくりにつながる気がする。
- ・日頃から各家庭で注意しすぎるくらいする。
- ・地域や家庭での話合の実行が大切。
- ・子どもの学校教育については、特に道徳教育を徹底すべきである。
- ・犯罪を犯さない人間教育やシステムが大事。
- ・子どもたちの夜の歩みを無くす。

情報提供関係

- ・犯罪に関する情報発信をきめ細かに行って欲しい。

社会構造関係

- ・格差是正。
- ・家庭構造変化(親の勝手)から生じる要因も大。核家族が多く、近所のつき合いが薄い。
- ・社会の不安定化に結びつく要因について安全という点からも真剣に対策をとる。
- ・京都、大阪に近く都会人化している感覚でいて素朴さが無い。
- ・大人も子どももマナーが著しく悪くなっている。
- ・世間体が悪いという感覚がなく、世相を反映している。
- ・自動車社会、交通量が増え裏道など主要な生活道路が奪われてしまっている。
- ・少子高齢化が一番取り組むべき問題、安全なまちづくりも長期的に考えればこのことに原因がある。

行政関係

- ・防犯についてのPR活動が少ないのでは。行政は啓発活動に力を注いで欲しい。(如何に県民に啓発するかが問題)
- ・行政も危険である認識の向上。行政と県民が多く話し合えることが必要です。
- ・机上や会議の場で話し合う対策が多い。(生きた具体策を真剣に考え取り組んであげる対策を実行すべき。)
- ・県や市の指導のもとに、地域ぐるみで安全なまちづくりに取り組む。

その他

- ・犯罪に対する罰則強化。
- ・酒たばこの自動販売機等に対する法規制を強化する。
- ・人権保護も大切だが、誰がどのような犯罪を犯したのか、被害状況や対策など情報を共有できれば、各自の注意喚起にもなると思う。
- ・未成年者の犯罪については保護者に連帯責任を持たせる。
- ・地域の安全は重要だが、監視社会になるのには反対。
- ・対策についてバラバラに取り組んでいくよりまとまって考えて1つずつ皆で行動していくことが大切。
- ・地域での子どもの見守りは、負担も大きい。